

研究テーマ名 性別役割規範の国際比較研究
 (英訳) International Comparative Study on the Structure of Attitudes toward Gender Role Norms

研究者紹介

吹野 卓 (法文学部・教授)
 片岡 佳美 (法文学部・准教授)
 英訳
 Takashi Fukino (Professor, Faculty of Law and Literature),
 Yoshimi Kataoka (Associate Professor, Faculty of Law and Literature)

概要

たとえば、弱者の権利を護ることが強者の役割であるとされている文化があるとしましょう。このような社会では「強い男」でありたい男性ほど女性の権利を認めようとするかもしれません。また弱者を支配することが強者の証である文化では、「強い男」でありたい男性ほど女性の権利を否定するかもしれません。すなわちどちらも男らしさ追求の現れである可能性があります。

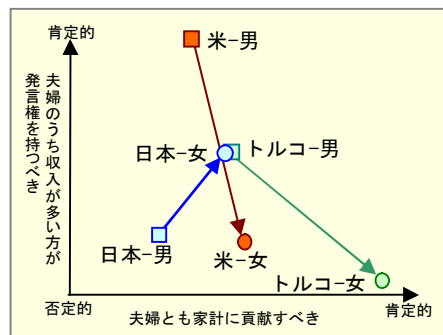
この研究は男女の役割規範の国際比較をするものですが、単に表面的な行動規範だけでなく、規範を体系的に捉え、上の例のような深いレベルでの比較を目指すものです。また、男女というどの社会でも普遍的に見られる社会的区分に基づくことにより、本当の意味で比較可能な比較研究を行いたいと思っています。

特色
 研究成果
 今後の展望

トルコ・アメリカ・日本の研究者でチームを組んで研究を進めています。

下図は、「夫婦のうち収入が多い方が発言権をもつべきだ」と「夫婦とも家計収入に貢献すべきだ」の2つについて、各国の男女がどのぐらい肯定的意見を持っているのかを示したものです。

一見すると収入を得ても発言権を求めないトルコ女性は、男性から見ると随分都合のよい存在のようですね。また「誰の稼ぎで喰ってるんだ」などと言いかねない日本男性は、収入と発言権の関係について日本女性よりも弱気です。



しかし本当は、そんなに単純な話ではなく、この図に現れた国別・男女別の違いは、様々な社会的文化的な背景の中で解き明かして行かねばなりません。

この研究では、各社会の性別役割規範を理解可能なシステムとして把握して、そのシステム同士を比較することを目指しています。

キーワード

社会学 性別役割規範 量的調査 国際比較研究